



NEWS

Trade Association
Fukuoka Foreign

福岡貿易会 会員広報誌

発行・編集／社団法人 福岡貿易会
〒810-0001福岡市中央区天神1丁目4-2
エルガーラビル7階
TEL.092-724-7131 FAX.092-735-4205
E-mail: info@fukuoka-fta.or.jp

vol.2

福岡貿易会会員広報誌



知事対談「グローバル化 進む福岡経済」 インタビュー!麻生知事に聞く。

CONTENTS

【知事対談】グローバル化進むこれからの福岡経済	1~2P
【体験談】拡大するEU巨大市場へのアプローチはオランダから	3P
【報告】広州・香港・マカオ経済視察団派遣事業	4P
【報告】第101回広州交易会を視察して	5P
【セミナー報告】今後の行事	6P
【会員メッセージ】編集後記	裏表紙

【表紙の横顔】 福岡新知事 麻生知事／福岡貿易会 並田会長

知事 対談

並田会長(以下、会長)

麻生知事、4選おめでとうございます。福岡県知事及び全国知事会会長としてのご活躍、中小企業のための各種政策遂行にまずお礼申し上げます。福岡貿易会は、来年、設立50周年を迎えます。事業内容としましては、福岡地区の貿易振興、国際交流事業の支援等を主に行っています。

本日は知事に貿易、国際関係を中心にお話を伺わせて頂きます。

まず第一点目ですが、今、国内外の地域間競争が非常に厳しいという状況の中で福岡県では海外の人材の確保、活用を非常に重要視しておられますが、これらの施策についてお聞かせください。

麻生知事(以下、知事)

人口減少期に入り若者人口が減っていく一方、経済のグローバル化はどんどん進んでいます。このような状況の中で、県内企業、福岡県が今後も活力を維持し繁栄していくためには、国内だけでなく広く海外からも優秀な人材を呼び込み活用していかなければなりません。

地元企業の皆さんが、国際的な競争に打ち勝ち海外とのビジネスを盛んに進め元気になってもらう、そのためにも留学生など海外の優秀な人材を是非活用していただきたいということから、このような取り組みを支援する組織「国際ビジネス人材支援会議」を企業・大学・行政機関の参加を得て2002年1月に設立しました。

我々の地域にはアジアを中心に多くの留学生が来て勉強していますので、地元企業と留学生との就職マッチングを行う「留学生のための合同就職面談会」を2004年から開催しています。毎回、企業は20社前後、留学生も500名程度が参加しています。昨年までの5回の面談会で留学生85名が33の企業に就職しました。

日本で勉強をして日本語もでき優秀な留学生を、もっと日本企業が雇って活用するということがあって良いと思います。

会長

ありがとうございます。今はまだ厳しい状況でしょうが徐々に効果が出てくると思われれます。また、いろいろ良い施策をやっていただいているので、当会の会員にも広く周知しまして、大いに活用させていただくように働きかけたいと思います。

知事

そうですね、是非お願いします。こういう合同面談会をやっているということ自体が、まだよく知られていないということがありますからね。

会長

次にお伺いしたいのが県産品の海外輸出についてです。これも知事がずっと前から特に農産物を中心に、海外への輸出を非常に積極的に支援されていますが、今後ど



ういう風に展開されるのですか。

知事

輸入も支援はしているのですが、特に輸出を積極的に支援しています。県は独自に、アジア、ヨーロッパ、アメリカに5つの海外事務所を持っています。ソウルと上海、香港、フランクフルト、それからサンフランシスコです。この事務所は所長を県から一人出し、あとはローカルスタッフで活動運営しています。福岡県企業の皆さんの輸出や輸入のお手伝いをやっています。

例えば、フランクフルト事務所は、ヨーロッパではお茶ブームということもあり、特に今は八女茶とお菓子の販路開拓を一生懸命やっています。また、アジアへの県農産物の輸出につきましては、「あまおう」をはじめ果物を中心に香港、台湾、上海、シンガポールで販売しています。これらの地域では、○の中に福の字を描いた「まる福マーク」を統一ブランドマークとして登録し、この統一ブランドをもって、我々の農産物の輸出を活発にやっているという状況です。だいたい今8億円程度ですけれども、ここ3年以内には20億円ぐらいにはしたいと考えています。

他に、中小企業の皆さんが輸出するなり、海外活動する上で非常に大きな役割を果たしている「経済ミッション」を行っています。テーマを絞った形でやる場合もありますし、総合的な形でやる場合もありますが、毎年海外各地にミッション団を派遣しています。例えば去年は自動車のミッションをタイに派遣しました。これは多くの中小企業の皆さんも一緒に行きまして、個別に行ったのではとても見られないようなところが見られるメリットがあります。今年の秋には、総合ミッションとして半導体関連、それから農産物関連、観光関連を中心としまして、非常に大きなミッションを派遣することを計画しています。そういうことを通じまして、中小企業の皆さんの輸出などを支援していこうということをやっています。

会長

ありがとうございました。食の安全と日本の味を含めまして、これからもっともっと日本からの農産物の輸出は増えていきそうですし、我々の会員企業の中にも県の商談会に育てられた企業がいっぱいありますので、これからは是非ご支援頂きたいと思います。

知事

商談会については、最近、輸入品も国内品も一緒にやるというような見本市が多くなってきています。「アジア産業交流フェア」「福岡インターナショナルギフトショー」それから「西日本国際食品見本市」など見本市自体も非常に活発にやっています。工業製品、食品、ギフト商品を出展するなど、それぞれ特色をもった見本市をやっています。

す。これは「国際見本市」として定着をしており、ここでの出品、あるいは商談活動というのも非常に大きな貿易振興の推進力になっていると思います。

会長

次に国際交流についてお伺いします。県は昨年2月にはタイのバンコク都と、また今年の3月にはインドのデリー州と友好提携を締結され、非常に活発におやりになっているのですが、今後、国際交流なり国際連携をどのように進めていかれようとしているのでしょうか。

知事

これまで我々の地域間交流はもっぱら韓国、中国との交流が主でしたが、今のようにどんどんアジアの国が発展しますと、我々の地域間交流も視野をもっと遠くまで広げていかねばなりません。ベトナムは社会主義ではありませんけれども、非常に活発な経済発展を始めており、またインドはITサービス産業を中心に特色ある経済発展を続けています。そういう意味で発展の著しいタイ、インド、また今交渉しておりますベトナムとの交流を深めていきたいと考えています。交流の中身は、経済に限定したものではなく、やはり文化、学術、青少年交流、あるいは環境といった広い分野を総合的にやっていくという交流を進めていきたいと思っています。

会長

最後になりますが、当会の会員は約250社ですが、いずれも貿易関連を中心に中小企業が多数です。県のその他の中小企業施策を聞かせていただければと思います。

知事

中小企業政策の中で我々が一番重視しましたのは、金融関係です。長い間、金融、銀行の機能が低下した時期がありましたが、それに対して「元気フクオカ資金」というのを大量に供給しております。これは、これまで担保さえあればお金は借りられる、貸すという「担保主義」から企業の経営状態や業績等をみる「業績主義」へ融資のあり方を転換しています。平成15年12月の資金創設以来、約13,000件、2,100億円の融資を実行しており、非常に多くの中小企業の皆さんに活用いただいています。

それから、インターネット上にそれぞれの企業が自分のお店を出すという、いわゆる「電脳商社」というのをつくっています。電脳商社には、BtoBとBtoCがありまして、BtoBは5,000社近くが参加しています。インターネット上に自社を紹介する上で必要な項目の他に、どういう固有技術をもっているのか、どんな設備をもっているのか、そしてその結果としてどのような独自商品、製品を持っているのかを載せるようにしています。かつてはこういう商品がほしいとか、こういう技術がどこかにないかということ人はづてで聞いていましたが、インターネットで検索することで第一次の選定をして、それから対一の話し合いがはじまるというやり方です。インターネット取引というのは、非常に活発になっていますから、これを大いに促進していかなければならないと思っています。

特に今のように自動車産業が新たに進出してくると、部品がほしい、良い技術をもった所はないかを、インターネットでお互いに検索し合いながら、企業連携或いは取



引の関係ができるという状態になっています。

もう一つは、BtoCで現在400社ぐらいが出店しています。まさに一般コンシューマー向けですね。コンシューマーの対象は国内に限られておりません。もちろんBtoCは国内のお客様が主たるお客様ですけれども、世界中から検索でき、海外でも知られてきているという状態になっています。特に中小企業はかつて海外との取引は、商社をお願いして海外進出、開拓をしていました。これからは、是非インターネットを使って開拓をするという方法を併行してやるのが良いのではないのでしょうか。

会長

知事がITの活用に先鞭をつけて早い段階から導入をされ、かなりの成果を生みつつあるということですね。中小企業の会員にも是非もう一度PRしてもっと使わせていただきたいと思っています。その他、知事から是非PRしておきたい！ということがございましたらお願いします。

知事

我々がいま生きている時代は、これまでの時代とは大きく違います。一言で言いますと「グローバル化の時代」です。世界経済は人類がこれまで経験したことのないような世界同時好況に入っています。世界経済がかつてないスピードで好況を享受し、成長していくという時代に入っています。イメージで言いますと、ちょうどアメリカの西部開拓時代みたいに西へ西へと馬車が進んでいる、という時代なのですね。いずれ太平洋に到達するでしょうが、このグローバル時代は、企業の大小にかかわらずグローバルな取引に直接的・間接的に関わる企業が儲かる時代だと思います。拡大するマーケットの中で最適生産、最適販売、最適ロジスティックの構築ができた企業が非常に伸び、儲かっています。そういう意味で、これは貿易会の皆さんの役割でもありますが、グローバルな時代になって世界経済の時代になればなるほど、中小企業といえども世界マーケットにどれだけ売り込めるかというのが最も重要な繁栄の条件になります。

会長

有意義なご指摘を頂きましてありがとうございます。当会は50年の歴史の中で、福岡貿易会という名前を使ってきていますが、私としましては貿易振興だけに限らず、実体は「国際化ビジネス推進協会」というような形でやろうよ、と言っております。事務局も一生懸命やっておりますので、これからますます知事や県の皆さんの力添えをいただきますようお願いいたします。

会長

本日はお忙しい中、本当にありがとうございました。

拡大するEU巨大市場へのアプローチはオランダから

日本貿易振興機構(ジェトロ) 福岡貿易情報センター所長 田代重光

欧州の中央に位置するオランダは人口、面積、GDPがほぼ九州と同じで、九州とは江戸時代以降長く友好的な関係が続いています。そのオランダに2003年から2006年までジェトロ・アムステルダム事務所長として約3年間勤務しておりました。印象に残っていることは「オランダは進出日系企業に手厚い支援をしてくれる国」です。EUが拡大し魅力的な巨大市場になってゆく中で、EUとの貿易に関心のある方々にとってはオランダをEUビジネスの足がかりとすることも選択肢の一つではないかと考えております。オランダで見たこと体験したことなどをもとに現代オランダの一端をご紹介します。

「日系企業に配慮した法人税の引き下げ」

私が赴任した当時オランダの法人税率は34.5%で他のEU諸国と比較すると相対的に低く、外国企業を誘致する上で優位性がありました。しかし次第に他のEU諸国が法人税率を引き下げてきたことにより優位性がなくなった為、法人税率を段階的に引下げ最終的には25%とする旨蘭財務省が発表しました。在蘭米商工会議所や在蘭ドイツ商工会議所などほとんどの商工会議所や進出外国企業は大歓迎でしたが、在蘭日本商工会議所(JCC)だけは検討する時間が欲しいと表明しました。その理由は法人税率が25%になるとオランダを「タックス・ヘイブン(税制上特に有利な国や地域)」とみなし、進出日系企業の業務内容によっては日本の親会社が課税される可能性があるからです。もちろん通常のビジネスを行っている大多数の日系企業は25%以下になっても何ら問題ありませんが、影響を受ける企業もあり日系企業全体の事情を総合的に検討し、JCCは25%ではなく25%に近い税率にして欲しい旨蘭財務省に申し入れを行いました。蘭財務省は他国の要望も聞いた上で最終的にJCCの要望を取り入れ最終段階で25.5%にすると決定しました。



アムステルダム市内(運河のある場所)

「日本人学校への寄付金」

オランダには全日制的日本人学校が2校、土曜日だけの補修校が4校あります。全日制はアムステルダムとロッテルダムにあります。ロッテルダム校は生徒数が少なく(60~70人)以前から経営が苦しく同校の役員をした歴代駐在員の方々は大変なご苦勞をされておりました。2000年以降経営が非常に苦しくなり役員の方々は各方面に支援要請を行いロッテルダム市にも支援をお願いしました。その結果ロッテルダム市は4年間に渡り毎年14,000ユーロ(当時のレートで約1,800万円)を日本人学校に寄付してくれることになりました。4年間支援して頂いたことからロッテルダム日本人学校は再建計画を達成することが出来、現在円滑な運営をしています。3年から4年で資本回収する欧米企業と違い、10年、20年と長期的な経営を行う日系企業を支援することは長期的にオランダの利益になると判断したと理解しますが、間接的な支援であり、なかなか出来ることではなく駐在員は皆感謝しておりました。

「財務省や経済省からの御用聞き」

外国企業が進出するまでは熱心に支援してくれる国は多くありますが、進出後も親身になって支援してくれるオランダのような国は少ないと思います。財務省や経済省は毎年1回以上日系企業の意見を聞く会(他の外国企業も同様)を設けてくれますし、担当者が直接進出企業に出向き、何か困ったことがないか尋ねてくれます。色々な相談にのってくれて、労務問題を解決して頂いたり、滞在許可証の取得にも協力して頂いたケースもありました。

「外国人には英語で話しかけてくれる」

オランダ人は日常当然オランダ語を話しますし、役所の文書や各種手続、新聞、雑誌はオランダ語ですが、ほとんどのオランダ人は流暢に英語を使います。英語のレベルは英米人と全く変わりません。ゆっくりと綺麗な発音でかつ解り易い英語表現をしてくれます。パーティー会場などで7~8人のオランダ人グループに私が一人入ると、全員が即座に英語に切り替えてくれました。これまでの他国における私の経験では私の両隣の人は英語を話しますが、反対側にいる人は母国語で話すケースがほとんどでした。こういったところにもオランダ人の暖かい気配りを感じました。

「謙虚で付き合いやすいオランダ人」

オランダは古くはスペイン、フランス、英国などから色々な圧迫を受け、第二次世界大戦ではドイツに一時占領された長く苦しい歴史があります。大国の間に挟まれた小国が如何にして生き延びてゆくかという運命を背負って国を発展させてきました。こうしたことからオランダ人は一般的に傲慢さやあつかましが無く、謙虚で外国人に優しく、かつ爽やかな国民であると私は感じています。EUとのビジネスに関心を持たれている方にとっては、オランダ人と手を組んで仕事を始めることが最善ではないかと思っております。



アムステルダム市内(ダム広場)

「EU巨大市場へのアプローチ」

欧州でビジネスに成功している日系企業は統括本部や販売拠点をアムステルダムかロンドンに置いているケースが非常に多くなっています。全欧州やロシアまで含めた巨大市場への統括本部や販売拠点をアムステルダムに置いている日系企業は30数社あります。道路、鉄道、水路、港、空港など交通インフラが優れ、英語で仕

事が出来き、かつ外国人に優しいお国柄が日本企業の進出を促しています。オランダに輸出することはロシアまで含めた全欧州への輸出に繋がってゆきます。EU及び全欧州市場に関心のある方々におかれては、まず手始めとしてオランダへのアプローチから始めては如何でしょうか。

「広州・香港・マカオ経済視察団派遣事業」 報告

(社)福岡貿易会 専務理事 甲斐敏洋

中国で最大の展示商談会「中国輸出商品交易会」通称「広州交易会」は1957年から開催され今年春で101回目をむかえた。今春の第101回目からは「中国輸出入商品交易会」と改称され中国からの輸出だけでなく、輸入コーナーが設けられ輸出入双方向の展示会・商談会となった。世界一の外貨保有国となり、諸外国から対中貿易赤字が問題化される中国、中国政府としても原材料、中間財を輸入、中国で組み立て製品化し、諸外国に輸出するという輸出加工型から、外貨を減らす目的もありここにきて輸入を奨励してきている。

今年1月末の当会常任理事会にて視察団派遣を決定し、4月17日から21日の間視察団を派遣した。

視察訪問団は前福岡市副市長の江頭博多港ふ頭(株)を名誉団長、当会並田会長を団長、福岡市経済振興局進藤理事を副団長とし特に今回は福岡市上海事務所村上所長、福銀香港平松所長、西銀シテイ香港山内所長が現地参加し総勢18名で結成された。

今回の視察団派遣の目的は①まず広州交易会を福岡と華南の貿易拡大に活用できないかを調査することを主目的とし、②併せて汎珠江デルタの中核をなし発展の留まるところを知らない澳門、珠海市、広州市、香港の実情を駆け足で見て廻った。

4泊5日で盛り沢山の非常にタイトなスケジュールであったが、高速道路、港湾設備、都市機能整備等インフラ整備に狂奔し、ほとぼしするような熱気と日本人が失いかけているバイタリテイ、成り上がろうと思う心、野心をひしひしと感じさせられるものであった。特にラスベガスを抜いたと報道されている澳門のカジノ、ホテル建設ラッシュ、広州南沙地区での広州トヨタ他企業の進出、高速船からみる南沙コンテナターミナル等何処にいても何時にいてもその規模、建設のスピードには驚かされるばかりである。

1.「日程」

- 1) 4月17日 「福岡～香港～澳門(高速船)入り」
夕食後ラスベガスを抜いたと言われるホテル近くのカジノ見学
- 2) 4月18日 「日資商業服務中心(有)訪問」 09:00～10:30
蕭氏貿易有限公司 董事、森脇総経理他面談 マカオ経済事情の説明を受ける
「住友ベークライト(有)訪問、工場視察」 11:00～12:30
郷家主席(総経理)面談
「澳門市内視察～珠海へ」
「パナソニックコミュニケーションズ珠海(有)訪問、工場視察」 15:00～16:30
山崎総経理、鴨川工場長面談
「珠海～広州移動」 16:30～19:30
- 3) 4月19日 「広州交易会視察」 新旧展示会場視察 09:00～16:00
「広州ジェット口訪問」 18:00～19:00
池部次長、塚田所長面談、廣東省汎珠江デルタ地区経済事情説明を受ける
「広州市幹部及び広州進出日系企業と視察団との懇親会」 19:15～21:30
広州市 13名、日系企業 9名、視察団 16名



19日広州交易会展示会場前にて



19日夜 広州市幹部、日系企業幹部との懇親会

- 4) 4月20日 「広州トヨタ工場訪問視察」 09:00~10:30
米田部長面談(前日懇親会には有川工場長出席)
「南沙地区視察～香港移動(高速船)」 12:30~14:00
「香港福岡県人会との懇談会」 18:00~21:00
緒方会長、清水副会長、福岡県竹下所長、福銀平松所長、西銀山内所長出席
- 5) 4月21日 「そごう、スーパーシティ食品売り場日本食材の販売状況視察」 10:00~11:30
「香港～福岡」



20日トヨタ広州工場見学

「第101回広州交易会を視察して」

報告

【視察目的】

- ・ 広州は私にとって思い入れのあるところである。福岡市入庁後、年後福岡市の研修生として広州市大学で学び若い時分を過ごした。仕事の関係では広州への研修もあり、中国他海外との関わりのある部署に配属されてきた。一方福岡市と広州市の友好都市締結も2年後に30年を迎える。
- ・ 今回第101回目の交易会を何とか福岡・九州に繋げることが出来ないかとの思いで本視察団に参加した。

福岡市経済振興局理事 進藤千尋



【輸入コーナー出展状況】

- (ブース数) 600小間 (春期交易会全体31,408小間)
(出展社数) 36カ国・地域 314社
香港(89)、台湾(42)、韓国(32)が中心。ほか、シンガポール、マレーシア、EU諸国、アフリカ等。日本は8社(華僑系が半数)
(出展内容) 住宅設備(浴槽、ドア等)を含む生活用品、身の回り品が大半

【印象】

- ・ 輸入コーナーの開設は、政府方針により昨秋の第100回交易会以降に着手したとのことで、できるだけカテゴリー別に分けようとした形跡は見られるものの、準備期間が短く、国・地域別でコーナーが分かれていたこともあって、やや雑然としていた(例えていえば、炊飯器の隣に文具、自転車の類)。
- ・ 日本企業のブースは散在していたため全部は確認できなかったが、一般に名が知られた企業は見あたらなかった。出展は、射出成形機、自転車、保健関連、貿易会社など。
- ・ 中国側からみた輸入促進のコーナーは、世界中からバイヤーが集まるため、中国だけでなく、世界のバイヤーに商品を見てもらふ機会として活用出来る可能性はある。その場合も回を重ね、中国や各国のバイヤーがそうした目でこの交易会を活用する、という流れの定着が必要。

【参考】

- ・ 従来からの輸出コーナーについては、近年、日本からは地方都市のディスカウントショップ、ホームセンター、スーパー等が調達品物色のため参加している例が多いとのこと。今回、日本国際貿易促進協会経由の参加は約400人。中国全土から多様なカテゴリーの優良企業が出展しているため、効率よく物色できる点が今日の交易会の使い勝手といえる。

「セミナー報告」

新人・新任者向け貿易研究会

<日 時> 平成19年5月23日(水) 13:30～17:00 貿易実務講座
平成19年5月24日(木) 09:00～17:00 施設見学

毎年ご好評を頂いております本研修も今年で9回目を数えました。これも、講師の先生方はもちろんのこと、税関・検疫所・貨物ターミナル・コンテナヤード・貨物倉庫の皆様のご協力の賜物と深く感謝致しております。

参加者のことばより

- * 1日目に勉強して、2日目に見学したのはとても分かりやすかった。
- * 航空、海上など色々な方面から見た貿易取引が学べてとても良かったです。
- * 日常入れないところを見学させて頂いて大変興味深かったです。コンテナヤード出の作業がなんて素早く進んでいくのだろうと…感心しました。
- * 新人の自分にとって難しい内容も多くあったが、今回学習したことをしっかりと復習し今後の仕事に役立てていけるようにしたいと思う。

参加型で身に付く貿易実務英語講座 ～貿易英語に親しむ～

<日 時> 平成19年6月13日(水) 9:30～16:30

<ところ> エルガーラホール 会議室 I

※日本貿易振興会(JETRO)福岡貿易情報センターとの共催

国際経済交流企業組合から商社勤務38年のベテラン講師である石井照雄氏をむかえ、実務に沿った参加演習型の貿易英語講座を開催致しました。

参加者のことばより

- * 講義も演習も実務的で分かり易かった。
- * 実体験を交えた話は興味深く為になりました。
- * なかなか貿易英語について学習する場がないので為になりました。

今後開催予定のセミナー

◎インド公演会

～日印戦略パートナーシップセミナー～

日時:平成19年9月13日(木)

15:30～17:30

会場:財九州経済調査協会6F 大会議室

◎海上保険セミナー

日時:平成19年10月25日(木)

13:00～15:30

会場:福岡商工会議所2F 研修室

◎中東(ドバイ)セミナー

～ドバイを中心とした中東の最新情報と展望～

日時:平成19年10月11日(木)

13:30～16:30(予定)

会場:福岡商工会議所2F 研修室

◎輸出入金融セミナー

日時:平成19年11月開催予定

◎中国語研修会

～仕事で役立つ簡単なビジネス会話～

期間:10月1日(月)から毎週月曜日(全12回)

19:00～20:15

会場:西日本ビル会議室